

令和2年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

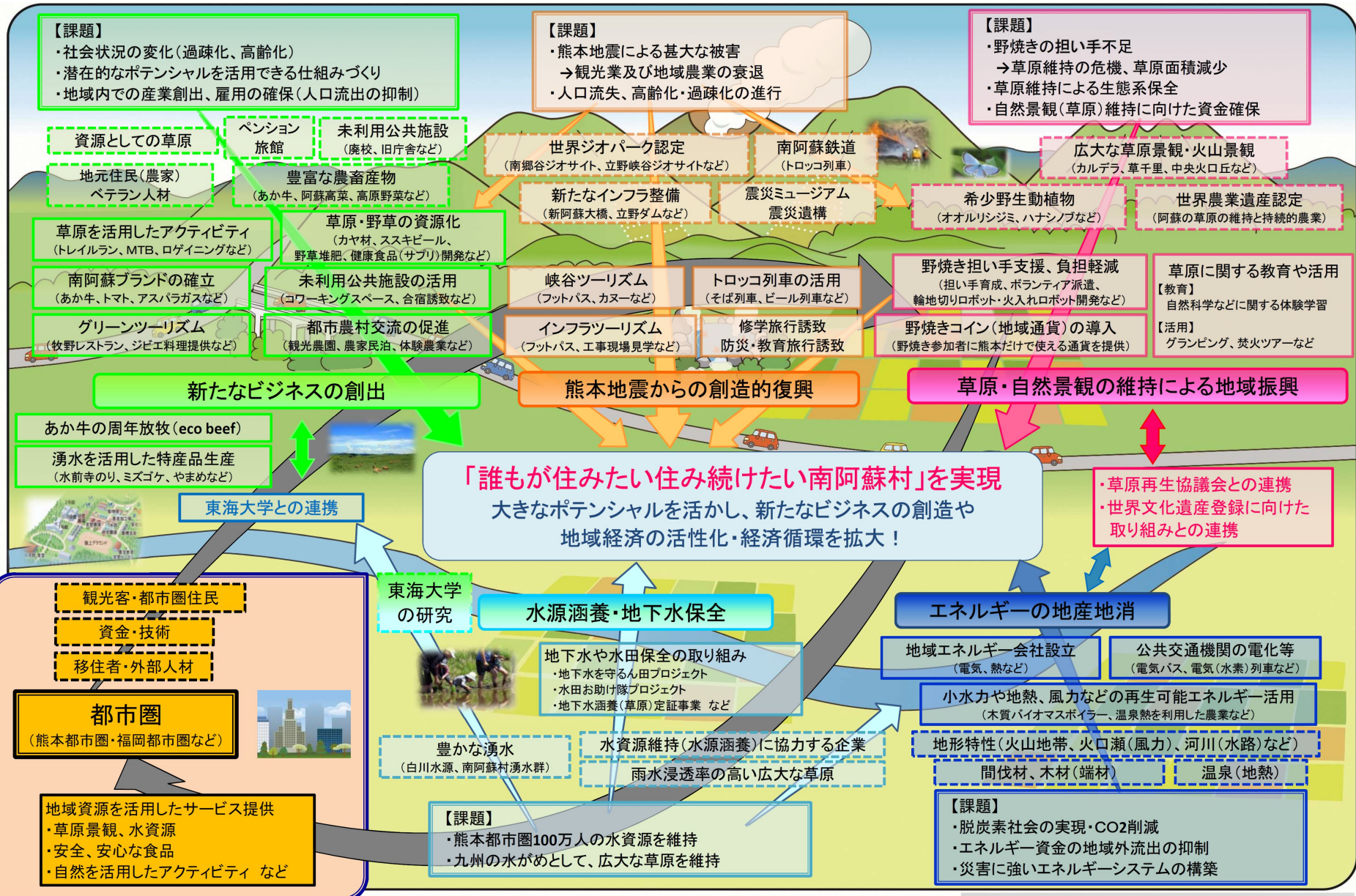
成果報告会 発表資料

活動団体名：熊本県、南阿蘇村

活動地域：南阿蘇村

活動におけるテーマ・キャッチコピー
＜湧水や自然景観を活かした地域活性化＞

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿



地域のありたい未来の実現のために **今年度取り組んだこと**

- 令和2年度は、マンダラの具体化に向け、ステークホルダーが取り組む事業に対する支援制度を実施。（「南阿蘇村地域循環共生圏づくり支援事業」（モデル事業））

【南阿蘇村地域循環共生圏づくり支援事業（モデル事業）概要】

- ・実施主体：南阿蘇村
- ・事業費：10,000千円（※財源は、村5,000千円、県5,000千円（県は村に補助））
- ・対象事業：南阿蘇村版マンダラの具体化を推進する事業
- ・補助率：補助対象経費の10/10、1事業につき上限5,000千円

<参考>

【R1年度の取り組み】

- ・環境省プラットフォーム事業により、南阿蘇村の地域資源を活かし、地域循環共生圏の構築に取り組む。
- ・ステークホルダーを集めた意見交換会の実施、シンポジウムの開催。
- ・南阿蘇村版マンダラの策定、ステークホルダーリストの作成

【R2年度の取り組み】

【環境省プラットフォーム事業】

- ・各ステークホルダーによる全体会実施
- ・分野別検討会の実施

- ・マンダラの具体化に向けた検討

・南阿蘇村における地域循環共生圏の構築

【モデル事業】

- ・マンダラの具体化に向け、南阿蘇村、熊本県によるモデル事業への支援を実施
- ・モデル事業の成果をプラットフォーム事業へ反映



地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

●モデル事業の実施状況は以下のとおり。

実施主体	事業名	事業概要	マングラとの関係
公益財団法人阿蘇グリーンストック	南阿蘇における「阿蘇の茅材」商品化事業	草原を活用したカヤ材の開発・販売に向けた体験会及び視察の実施	・新たなビジネスの創出 ・草原・自然景観の維持
くまもと阿蘇県民牧場株式会社	南阿蘇村黒川地域創造的復興事業	熊本地震で大きな被害を受けた南阿蘇村黒川地区の創造的復興を実現するため、地域資源を活用した地域振興策の基本構想を策定	・熊本地震からの創造的復興
株式会社リアムウィンド	南阿蘇の自然エネルギーポテンシャル評価及びマップ作成事業	南阿蘇村における、風力、太陽光、小水力に関するエネルギー調査の実施及び賦存量マップの作成	・エネルギーの地産地消
九州電力株式会社熊本支店	ドローンを活用した南阿蘇PR事業	ドローンを活用した、南阿蘇村における地域循環の仕組みを発信するPR動画の作成	・草原・自然景観の維持 ・水源涵養・地下水保全
後藤コーヒーファーム	南阿蘇コーヒーの里づくり事業	南阿蘇村の豊かな資源環境を活かしたオリジナル珈琲の開発	・新たなビジネスの創出

地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

モデル事業具体例①

南阿蘇村における「阿蘇の茅材」商品化事業

【事業概要】

草原を活用した茅材の開発・販売に向けた体験会及び視察の実施

【成果】

村内で阿蘇の茅の必要性や品質の良さなどの説明を行い、その後、茅束の作り方の実践を行い意見交換を行った。



モデル事業具体例②

南阿蘇の自然エネルギーポテンシャル評価及びマップ作成事業

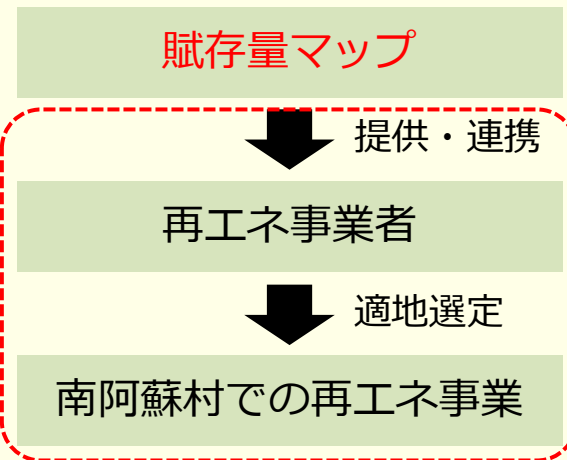
【事業概要】

村内における、風力、太陽光、小水力に関するエネルギー調査の実施及び賦存量マップの作成

【成果】

村内の自然エネルギー賦存箇所を可視化した。

【マップ活用イメージ】



来年度以降

地域のありたい未来の実現のための「事業のタネ」

1	事業名	草原再生に向けた草原維持システムの構築		
	概要	阿蘇の草原は、採草・放牧・野焼きによって、千年以上にわたって人々の手によって維持管理されてきたが、過疎化・高齢化の進行に伴う野焼きの担い手不足などから、地元住民やボランティアだけで草原を維持していくことが困難になってきた。 そのため、草原自体を資源と捉え、草原維持に必要な資金を確保する新たな草原維持システムを構築する。具体的には、草原を茅葺屋根の茅材として販売し、それによって生まれた収益を草原の維持管理費用に充当する。これにより、都会から地方への資金循環の仕組みを構築する。		
	課題・ボトルネック	地元牧野組合等の理解を深める他、茅材の安定的な販売先確保が必要。	力を借りたい人物・企業像	カヤ材の販売に協力してもらえる牧野組合。

2	事業名	地域資源を活用した特産品の開発		
	概要	豊かな自然や豊富な湧水を有する南阿蘇村の地域資源を活用し、新たな特産品を開発する。これにより、産業の創出や雇用の確保を行うとともに、農家の所得向上や都市との交流促進を図り、地域活性化を実現させる。 具体的には、湧水を利用したヤマメの養殖や、冷涼な気候を活かした珈琲の栽培を行う。これらの取り組みにより、都市圏からの資金流入も見込まれ、地域活性化を図る。		
	課題・ボトルネック	事業拡大及び特産品にどのような付加価値を付け、ブランド化していくか。	力を借りたい人物・企業像	事業拡大に向けた関連事業者及び、ブランド化に向けた、マーケティングの専門家。

3	事業名	再生可能エネルギー活用事業		
	概要	南阿蘇村の温泉施設では、温泉を加温するため多量の灯油を使用しており、地域外へエネルギー資金が流出している状態。 そのため、間伐材や木工所の端材などを燃料とした木質バイオマスボイラーを導入することにより、エネルギー資金の地域外流出を防ぎ、脱炭素社会の実現につなげる。		
	課題・ボトルネック	採算性が未定。木材の安定供給。	力を借りたい人物・企業像	再生可能エネルギーに積極的に取り組む事業者。

今年度の環境整備の取組による地域の変化や気づき

話を聞きに行く！

- 新たなステークホルダーとして、地元鉄道会社と、バイオマスの活用事業を展開するNPO法人が加わった。
- モデル事業について、ステークホルダーからの応募は、当初想定していたよりも多く、地域資源を活用した事業に対する関心の高さに気づいた。

地域のコンセプトを描く！

- 南阿蘇村版マンドラを具体化するためには、単に意見交換を行うだけではなく、実際に事業を実施してみることが必要。
- 本年度モデル事業を実施する中で、一つの事業が複数のステークホルダーに関係し、それを有機的につなげていくことが必要だと気づいた。

事業のストーリーを語る！

- 事業を実施していく中で、各ステークホルダーの特性を活かし、それぞれの事業目的や得意分野を組み合わせることにより、実現可能性が高くなることに気づいた。
- また、実際に事業をやってみることにより、新たな循環の仕組みやブランド化へのストーリーなど、改めて気づくこともあった。

地域の目標を立てる！

- 今年度目標の見直しは行わなかったが、社会情勢が変化していく中、目標を柔軟に変更することは必要だと感じた。

2ヶ年の取組におけるボトルネックや新たに見えてきた課題

【初年度】

- 地域循環共生圏のコンセプトを、ステークホルダー候補に理解してもらうことが非常に困難。担当も説明に苦慮！
- また、地域版マンガラの作成に当たり、地域資源の洗い出しや目指す姿の設定など、地域循環共生圏と地域づくりの関係性が難しい！



⇒そこで・・・💡

各ステークホルダーに地域循環共生圏のコンセプトを理解してもらい、地域循環共生圏の構築と地域づくりを結び付けるため、**モデル事業を実施**することを決断！

【2年目】

- モデル事業の実施により、地域循環共生圏への理解や、地域づくりにつながる浸透。同時に、地域版マンガラの具体化も進んできた。

⇒ 一方で、南阿蘇村における地域循環共生圏の構築は進んでいるが、これを**どのように続けていくのか**・・・



今後の展望

これまでの取組みを継続していくため、

- 今年度実施したモデル事業をはじめ、これまでの2ヶ年の取組みを報告書としてとりまとめ、各ステークホルダーに配布。また、自治体が実施している既存の補助メニューも報告書に記載。



- これにより、各ステークホルダーが地域循環共生圏のコンセプトに基づく事業に自発的に取り組んでもらうことを目指す！

さらに、

- 本年度実施したモデル事業の成果を踏まえ、南阿蘇村としては、引き続き、ステークホルダーとの意見交換などを実施。



- これにより、南阿蘇村版マンガラの具体化を更に進めると同時に、当初の目的であった、熊本地震からの創造的復興の実現を目指す！

